

第 21 回メキシコ日本語教育シンポジウム 基調講演・ワークショップ・パネルディスカッション概要

日時:2016年3月4日(金)・5日(土)・6日(日)

場所:メキシコシティ・日墨協会日本語教室

主催:メキシコ日本語教師会

Asociación Mexicana del Idioma Japonés, A. C. (AMIJ)

助成:国際交流基金

参加費:会員=100ペソ(※別途入会費 500ペソ) 非会員=700ペソ

メインテーマ

「会話力の向上に向けて—その測定、評価、そして指導法—」

昨今のインターネット技術の発展には大いに目を見張るものがあります。そのため日本から遠く離れたメキシコにおいても、インターネットを介して日本のみならず、世界中の日本語使用者と会話することも可能になりました。そのようなコミュニケーション形態の進展の中、今回のシンポジウムでは「会話力の向上に向けて—その測定、評価、そして指導法—」というテーマのもと、メキシコ国内のみならず、世界中からこのテーマに関心をもつ日本語教師、日本語教育研究者の参加を募り、これまで以上に成果の期待される集まりを企画しました。南山大学人文学部日本文化学科教授の鎌田修先生をお招きし、基調講演、ワークショップ、そして、パネルディスカッションをリードしていただくことになりました。

なお、鎌田修先生による基調講演、ワークショップ、パネルディスカッションのテーマと大まかな内容は次の通りです。

基調講演(1日目)

「会話ができるとは、そして、できないとは—会話能力の原点とその育成—」

鎌田修(南山大学人文学部日本文化学科教授)

- ・ 会話能力の原点:「言語活動のプール仮説」について
- ・ 会話活動の成立とその環境:総合的タスク、機能、場面、文法、テキスト
- ・ 会話能力の測定と評価:初級とは、中級とは、上級とは、超級とは?

ワークショップ(2日目、3日目)

「様々な環境における日本語会話の測定と評価:

アカデミック場面、ビジネス場面、生活場面などを背景に」

- ・ それぞれの場面で必要となる会話の特徴とその分析
- ・ それぞれの場面における会話力の測定と評価
- ・ メキシコやそのほかの事例を具体的に考えながら、クラス活動に生かせるワークショップを予定しています。

パネルディスカッション 発表者含め討論など(3日目)

「会話能力の向上に向けて:学び方と教え方」

3日間の学びの中から、どうすればニーズに沿った日本語会話能力の向上につながられるのかディスカッションを行います。